

横浜市大

# がん新薬など重点研究

## 医学分野 新プロジェクト9件

横浜市大は、がん対策の  
新薬やエイズワクチン開発  
など医学分野で9件の研  
究開発プロジェクトを決め  
た。基礎研究の成果を生か  
し、最先端分野の研究に重  
点的に取り組む。横浜市大

は「実用化に成功すれば、  
画期的なものばかり。横浜  
発の技術として世界への発  
信を自指す」と話している。

横浜市大先端医学研究  
センターは4～5月、「がん  
の制圧」「生活習慣病や  
免疫・アレルギー疾患の克  
服」「がんの早期発見」の  
学内でプロジェクト案を公  
募した。

寄せられた約40件の中か

ら、他の研究機関が取り組  
めないような大学の独自性  
が打ち出せる9件が選ばれ  
た。今年度の予算は約50  
00万円。プロジェクト全  
体の期限は定められていな  
い。

がん対策では、乳がんの  
初期診断を可能とする遺伝  
子の指標(バイオマーカー)  
の研究や、再発や転移の原  
因とされている「がん幹細  
胞」を標的とした新薬の開  
発などを行う。膵臓がんと  
胃がんでは、遺伝子情報に  
基づいて患者の体質に合っ  
た治療の確立を目指す。

また、エイズワクチンは  
来年中、中国とインドで臨

床試験を始め、早期の実用  
化を図る。

高血圧や肥満などの生活  
習慣病関連では、予防のた  
めのネットワーク作りにも  
取り組む。